

[プレスリリース翻訳版]

ゴールドマン・サックス、「10,000 Women (1万人の女性)」プログラムを発足

世界各地の教育機会に恵まれない女性を対象に
ビジネス及び経営学を学ぶプログラムを提供
ビジネス教育の質および量の向上を目指して
米欧の大学と新興国・発展途上国のビジネススクールとの連携

2008年3月5日(ニューヨーク)——ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク(NYSE:GS)は、本日、新興国・発展途上国を中心とした教育機会に恵まれない女性に向けてビジネス・経営学の学習機会を提供するという、「10,000 Women(1万人の女性)」というグローバルなプログラムを立ち上げると発表した。この新しい試みは、多大な可能性を秘めている多くの人的資源——起業家、管理職として急速に頭角を現している女性達——に対して投資をするというものである。「10,000 Women」プログラムでは、米欧の大学と新興国・途上国のビジネススクールの連携を通じて、世界各地の発展途上地域におけるビジネス教育の質と量を継続的に向上させることを目指す。

第一段階として、経済的な問題や家庭の事情で従来のビジネス教育を受けられなかった多くの女性に向けて、ビジネスと経営学の短期プログラムを提供する。プログラムの内容は実務的かつ柔軟なものであり、修了者には修了証明書を発行する。参加者の中からは、経営学修士課程や学士課程への進学者も選抜する。

ゴールドマン・サックスの会長兼CEOであるロイド・C・ブランクファイン(Lloyd C.Blankfein)は次のように述べている。「開かれた市場の擁護者たるものは、より多くの人々が経済成長の恩恵を享受できるよう、努めなければならない」。「『10,000 Women』プログラムは、従来重要でありながらも見過ごされてきたビジネスに従事する女性や管理職、実業家として働く世界中の女性たちの地位向上のための基盤作りという部分に焦点をあてるものであり、ゴールドマン・サックスの持てる資源を提供したいと考えている」

同プログラムは、ビジネス及び経営学の教育に係る学費の資金的援助だけでなく、若い女性たちが能力をいかんなく発揮し、チャンスを得られるよう、克服すべき地域固有の問題について理解を深めるために支援機関とも協力体制を築いていく。このような協力体制を通じて、女性同士のメンタリングやネットワークのチャンネルを構築し、キャリア向上の機会を促す。

「10,000 Women」は、女性の就業率が高まることで経済や社会への好影響をもたらすという、ゴールドマン・サックスが手掛けてきた経済調査結果にアイデアを得たものであり、1年以上をかけて準備を進めてきたプログラムである。ゴールドマン・サックスは、同プログラムに今後5年間の間に1億ドルを拠出する。さらに、ゴールドマン・サックスの社員も、講師やメンターとして同プログラムに参加し、それぞれの持つ専門知識を提供する。

途上国・新興国において次世代の起業家や経営者の層を拡大していくこと、特に女性の人材活用は、差別をなくし経済成長の果実を公平に享受するために最も有効な手段である。ゴールドマン・サックスは、米国内の教育機会に恵まれない女性に対してビジネス及び経営学教育を提供する追加プログラムを、今後数ヶ月以内に発表する。

現在、協力を得ている教育機関:

- ・ アメリカン大学アフガニスタン校
(American University of Afghanistan)
- ・ アメリカン大学カイロ校
(American University in Cairo)
- ・ ブラウン大学
(Brown University)
- ・ コロンビア大学経営学大学院
(Columbia Business School)
- ・ ハーバード大学経営学大学院
(Harvard Business School)
- ・ インド・ビジネススクール
(Indian School of Business)
- ・ パンアフリカン大学(ナイジェリア)
(Pan-African University, Nigeria)
- ・ スクール・オブ・ファイナンス・アンド・バンキング(ルワンダ)
(School of Finance and Banking, Rwanda)
- ・ スタンフォード大学経営学大学院
(Stanford Graduate School of Business)
- ・ サンダーバード大学スクール・オブ・グローバルマネジメント
(Thunderbird School of Global Management)
- ・ 米国国際大学(ケニア)
(United States International University, Kenya)
- ・ ケープタウン大学経営学大学院
(University of Cape Town Graduate School of Business)
- ・ ケンブリッジ大学ジャッジ経営学大学院
(Judge Business School, University of Cambridge)
- ・ ダルエスサラーム大学(タンザニア)
(University of Dar es Salaam, Tanzania)
- ・ ミシガン大学ウィリアム・デビッドソン・インスティテュート
(William Davidson Institute at the University of Michigan)
- ・ ペンシルバニア大学ウォートン校
(Wharton School at the University of Pennsylvania)

「10,000 Women」でビジネス・経営学の教育を提供するために

「10,000 Women」では、教育機会に恵まれない女性たちに、様々な方法でビジネス・経営学の講座を提供する。例えば、学校間で提携して5週間から6ヶ月の認定コースを設け、マーケティング、会計学、市場調査、ビジネスプラン作成、戦略立案、資金調達やeコマースなどの授業を行う。

また基盤整備(キャパシティ・ビルディング)にも注力する。カリキュラム作成、事例研究でローカルな題材を取り上げる方法、そしてビジネス教育の全般的な質を向上させるため、教員向け教育や専門教育も行う。

「10,000 Women」についての詳細と個別のプログラムの詳細は、10000women.org にてダウンロードできるファクトシートを参照いただきたい。

女性は天の半分を支えている

ゴールドマン・サックスは「女性は天の半分を支えている」と題した調査レポートを発表し、同レポートで女性教育の強化は、途上国・新興国にとって経済発展を遂げるために不可欠である、と指摘している。

- ・ 女性が教育を受けるということは、その女性の人生のみならず、次世代の健全な発達や教育水準、生産性にも影響を与える。高い教育水準は経済成長を促し、それによって教育や公衆衛生が絶えず改善されるという好循環が発生する。
- ・ BRICsその他の主要新興国において、雇用における男女格差を縮小すれば、2020年までに1人あたり収入が最大10-14%上昇すると予測している。これらの諸国で、より女性に対する高度な高等教育が徹底されれば、過去10年で年率0.2%増だったGDP成長率はより向上したであろうと結論づけている。

ゴールドマン・サックスのコーポレート・エンゲージメント

「10,000 Women」は、ゴールドマン・サックスの社会貢献活動の中でも最大規模のものであり、当社の市場および経済発展への継続的な支援へのコミットメントを示すものである。当社の社会貢献活動には、次のものがある。

- ・ ゴールドマン・サックス・ギブズ(ドナー・アドバイズド・ファンド=寄付者の意向に沿って寄付を行う基金)
- ・ ゴールドマン・サックス財団(2000年以来、奨学金として1億ドルを提供)
- ・ 市場における環境問題への取り組み(研究機関やNGOと共同で、環境変化の問題を市場ベースで解決する方法を探る)
- ・ パブリック・サービス・プログラム(社内選考を経て、社員を非営利団体で最長1年間働く機会を提供するというプログラム)
- ・ コミュニティ・チームワークス・プログラム(2007年は、20,000名以上の社員が参加。同プログラムは世界各地の非営利団体との協働プロジェクトにチーム単位で参加できるよう、社員に年間1日の有給休暇を認める制度)

ゴールドマン・サックスは、投資銀行業務、証券業務および資産運用業務を中心に、多岐にわたるグローバルな金融サービスを世界中の企業、金融機関、政府機関等に提供している世界有数の投資銀行です。1869年創業の世界で最も伝統のある最大手の投資銀行のひとつであり、ニューヨークを本拠地として、ロンドン、フランクフルト、東京、香港およびその他の世界の主要な金融市場に拠点を擁しています。

お問い合わせ：
ルーカス・ヴァン・ブラーグ/クリストファー・ウィリアムズ(ニューヨーク)
212-902-5400

ゴールドマン・サックス証券株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
03-6437-1648